

第5次福山市上下水道事業経営審議会（第1回）議事概要

- 1 日 時 2025年（令和7年）7月10日（木）
午前9時から午前11時20分まで
- 2 場 所 上下水道局中津原浄水場 水質管理センター2階 会議室
- 3 出席委員 10人（委員総数 10人）
池田 佑介、客本 牧子、小林 仁志、佐藤 彰三、清水 聡行、
武井 晶代、角田 千鶴、橋本 敬治、藤井 徹太、堀田 洋子
（※名前は五十音順）
- 4 傍聴人 0人
- 5 次 第
 - （1）開会
 - （2）任免通知書（委嘱状）の交付
 - （3）上下水道事業管理者挨拶
 - （4）審議会委員及び上下水道局職員自己紹介
 - （5）議事
 - ①会長及び副会長の互選
 - ②諮問『適正な水道料金について』
 - ③今後の審議スケジュール
 - ④上下水道事業の現状と課題
 - （6）閉会
- 6 配布資料
 - （1）第5次経営審議会（第1回）次第・出席者名簿
 - （2）諮問書（写）及び諮問理由
 - （3）資料1 今後の審議スケジュール
資料2 上下水道事業の現状と課題
- 7 会長及び副会長の互選
会長には、清水委員が選任された。副会長には、池田委員が選任された。
- 8 質疑要旨

議事③ 今後の審議スケジュール

・「水道」というと家庭における水道もあれば工業用水もある。今回の「水道料金」はどの範囲のものか。

⇒「水道事業会計」と「工業用水道事業会計」は別会計となっており、今回は「水道事業会計」における水道料金を審議していただく。

議事④ 上下水道事業の現状と課題

・若い世代からすると、人口減少や施設の老朽化は随分前から分かっていたにも関わらず、なぜ私たちの時代から負担を強いられるのかと疑問が生じる。マンション等は 35 年～50 年かけて修繕積立をしているのに、水道では過去にそれが行われていなかった、というイメージ。これまで料金改定を行わなかった理由と、値上げした場合、値上げ部分で全ての問題が解決するのかどうか伺いたい。

⇒料金見直しの検討においては、収支や資金の状況が重要となってくる。これまでは一定程度の収支は確保できており、資金も他の中核市と比べて少ないものの、急に不足するような状況ではなかった。

そのような状況の中、経営努力によって市民に負担をお願いすることなく料金を維持してきたが、2024 年度（令和 6 年度）決算の速報で収支と資金の落ち込みが明らかになった。厳しい現状を踏まえ、急激な料金の上昇を避けるため、この時期に適正な料金の検討が必要になった。

今回の会議では、R6 決算や財政見直しをお示しする中で、収支と資金の状況を説明する。また、施設整備の水準設定も議論が必要で、第 2 次審議会で行われた資産維持費の議論も踏まえながら、今回は、財政状況と施設整備のあり方をどう両立させるか議論をお願いしたい。

・水道事業は企業会計を採用しており減価償却を積み上げてきているが、物価上昇や人件費高騰が完全に反映されていない部分もあると考えている。全国的に資産維持費の設定についての議論が進められていることも踏まえ、次回以降の審議会でのこの点を議論していただきたい。

（会長意見）

・この資料は委員と市民の双方に向けた資料であるため、例えば「福山市は中核市比較で耐震化が進んでいる」というような福山市の現在の立ち位置を明確にする必要がある。全国平均と比較した現在の耐震化の状況を示し、これまで値上げをしないで全国水準を上回っているという大きな文脈に基づいた説明があれば、過去の取組も否定されず市民の理解につながる。

⇒耐震化の指標として全国平均より高く、リスクを軽減できる状況になってきていると考えている。現状の経営環境や施設の整備水準を踏まえた議論が必要であるため、委員のみならず市民からいただいた意見を基に、資料の見せ方を工夫していきたいと考えている。

・2022 年（令和 4 年）からの委託拡大（中津原浄水場外運転管理等業務委託）に伴い費用の総額が増えている。経費削減できなかった理由があれば記載する必要があるのではないか。

⇒2022 年（令和 4 年）から電気代と薬品費が委託料に含まれており、市場の電気代と薬品費が通常より高くなった。直営で支払う場合と委託料に含まれるこれらの経費を比較し同額であることを確認した。委託業務範囲を拡大したことで経費が増えたわけではないという点をご理解いただきたい。

・「水道料金収入の見通し」について、「上下水道事業中長期ビジョン」の予測から乖離があるが、本当に合っているのか。今回値上げをしたとして、どの経費を負担するのかわからないし、将来世代に負担してもらうべき経費もある。

⇒給水人口の減少については、最新の国立社会保障・人口問題研究所の推計に基づいたものであり、水道料金の収入減についても、時系列分析の結果を考慮した数字であるためご理解いただきたい。将来と現在の世代間負担についても納得いただけるような資料に改善していく。

・人口減少によって収入も減少している。人口減少が緩やかになる対策や収入を増やす取組を上下水道局や他部局は講じているのか。また、ライフライン強靱化の推進で、地震や津波など、どの程度を想定し、これに対する事業費を試算しているのか。あわせて管路破損対策についても教えていただきたい。

⇒市として人口減少対策は積極的に行っているが、上下水道局としての直接的な施策は難しい。過去、水が貴重だった時代は公共施設でも節水を呼び掛けていたが、今は必要な水をしっかり使っていただくよう需要喚起を行っている。しかし、使用者の減少や節水機器の進歩により水需要は減少しており、料金に関しての議論をお願いするしかないのが現状である。

耐震化について、今年策定した「上下水道耐震化計画」は老朽化の状況や能登半島地震を考慮しており、特に病院や避難所など重要な給水先への耐震化を進める必要があると考えている。他事業体における大規模な管路破損事故については、40 年以上経過した管路が多く、本市においても同様の水道管があり、これらは耐震性がほとんどない状況である。本市は高度成長期の 1974 年（昭和 49 年）から 1979 年（昭和 54 年）に集中して水道管を布設しており、老朽化対策が急務である。「上下水道耐震化計画」では、今後概ね 30 年以内に重要施設へ接続する管路の耐震化を 100%とすることを目指している。

・基幹管路の耐震化は全国平均と比べても非常に高いレベルだが、グラフだけ見ると更新が遅れていると感じるかもしれない。次回以降、基幹管路の耐震化状況を詳しく示す資料をいただければ。特に重要施設や大口径の管路の耐震化の進捗や老朽具合が可視化されれば、理解が深まると思う。

（会長意見）

・資料からは、水の使用量が減少して経営が厳しく、経営努力にも限界がある中で今後も災害

への対応も必要になるため、値上げが必要であることが伝わる。しかし、上下水道局としての将来のビジョンが示されず、市民にとってのメリットが伝わりにくい。

⇒市民生活に欠かせないライフラインとして、安全な水の安定供給と施設の更新・耐震化を推進し、健全な経営を維持する責務がある。当たり前のことを当たり前に行うことを目標に、適正な水道料金という形で必要な財源をいただきながら、事業を進めていきたい。厳しい内容が中心で申し訳なく思うが、現状を理解いただくための資料である。今年は通水 100 周年の年であり、水道の重要性を PR する絶好の機会と捉えているため、今後、皆さんと市民への PR 方法も議論しながら、次の 100 年へ向けた事業の方向性を示していきたい。

・「水道水が当たり前に出ることを目指す」「飲める水道水を維持し続ける」など、重要なポイントを市民に認識していただけるよう説明を工夫していただきたい。

(会長意見)

・この地域では災害に対する認識が低い。水の大切さを理解するため、福山市と協力して防災意識を高める取り組みを進めていただきたい。

⇒市と連携し、防災訓練などを通じて防災意識の向上に努めていきたい。

・「値上げをされたくない」と思う市民が審議会や上下水道局ホームページを見ると思う。これまでの議論や状況を知らない市民が今の資料を見ると、否定的な印象を先行させる懸念があり、まずビジョンや夢、値上げの必要性を語ることが重要。また、値上げをした他市町の事例を参考に、想定される懸念点や Q&A を事前に整理し対策を講じるべきである。

⇒上下水道事業へ注目していただくいい機会でもあると思う。Q&A に関連して目的や今後の展開を資料に織り込むなど、工夫を重ねていきたい。

・ダウンサイジング・集約の方針が、『今後 10 年間の主な事業』の施策において浄水場の更新しかないように見える。配水池も小規模なものまですべて耐震化を進めるのか。集約・統合の視点はないのか。

また、基幹管路の耐震化率が高い水準にある中で、今後どうしていくのか、安心とコストのバランスが見えづらいので説明してほしい。

そしてこれからの 10 年間の施設整備は、これまでの 10 年間と同じように続けるのか、方針が見えないので教えてほしい。

⇒これまで行ってきた熊野浄水場などの更新時では、ダウンサイジングや分散型・集約型の検討を行い、将来の水需要に合わせた適正な規模に調整した。その際の考え方としては、水質特性や維持管理、管路延長を総合的に判断し、熊野浄水場は集約型として廃止した。中小規模の配水池も耐震化を進めつつ、ダウンサイジングや集約の可能性を検討する。基幹管路についても工事費が高いため、適正な規模や口径へのダウンサイジングが重要であると考えている。

・「上下水道耐震化計画」で重要施設管路は、30 年後に耐震化率 100%をめざすという方針があ

った。基幹管路についても同様に 30 年で 100%をめざすのか。

⇒基幹管路は大口径で給水エリアも広範囲になります。破損した場合は甚大な被害が生じるため、できるだけ早い時期に耐震化率 100%をめざして整備を進める必要があると考えている。

・重要施設管路の耐震化率を 30 年で 100%にするという目標は、どのような考えで設定されたもののなのか。

⇒国の調査で南海トラフ地震の発生確率が 30 年以内に 75%～80%と示される中、福山市も対策推進地域に指定されていることから、遅くとも 30 年後までに、可能な限り早く耐震化率 100%を達成するという考え方で目標を設定している。

・自立分散型施設の考慮について、人口の割に給水区域が広い福山市は、より効率的なシステムの導入を模索すべき自治体と考えられるが、考えがあれば教えてほしい。

⇒人口減少を見据えた水道インフラの在り方が国で検討されており、地域特性に応じた分散型の水道システムも含めたありかたを提案されている。福山市では、例えば山野町のような中心部から離れた地域では現在分散型システムを構築している。将来の更新時には、集約型と分散型のどちらが適しているかを様々な視点で検討する必要があると考える。

・施設整備と経営計画は事業の両輪となるため、慎重に審議しながら多様な意見を取り入れる必要がある。施設整備計画を分かりやすく示していただき、必要な費用も明示していただきたい。

(会長意見)

・市議会とのやり取りを見ても、市民からは市の努力が見えず、突然の値上げと感じる可能性がある。27 年前の値上げ時の市民の声を参考にしたい。議員からの意見やこの審議会でも様々な意見が出されたが、それを踏まえてどのように市民に投げかけていくのか。

⇒本会議や建設水道委員会でもご指摘やご要望をいただき、値上げの決定には市民の声をしっかり聞く必要があるとの意見が多くあった。この度、市民の声を広く聞くため、無作為に選んだ 3,000 人の市民と 300 の事業所にアンケートを送付し、水道事業全般に関する質問に加え、議会の意見を踏まえ料金に関する質問を充実させ意見を収集することとしている。次回以降の審議会で、市民の意見を速報としてフィードバックする。議会からは審議会だけに責任を押し付けるのは良くないとの意見もあり、議会と審議会の役割分担を明確にして双方向からご意見を頂きながら議論を進めていく。

・料金改定についての理解が必要となるため、市民の皆さんへの周知を丁寧にしていかないといけない。説明会、アンケート、パブコメなどをうまく活用していくことも重要かと思う。

(会長意見)

・料金改定の必要性やライフラインとしてのコストを皆で負担しなければならないことは分か

ってきたが、緊急性が感じられない。100 周年のタイミングがきっかけに聞こえ、今議論しなければならない必然性を説明する必要があるのではないかな。

また、市民との意見交換の方法が最も重要だと思う。さまざまな手法があると思うが、方法論は排除しないでいただきたい。

⇒今日の資料では切迫感が伝わっていないかもしれない。次回、決算状況や中長期の財政見通しを通じて、議論の必然性を理解いただけたらと考えている。

市民の声をしっかりと聞くため、先ほど述べたアンケート結果も踏まえながら、さまざまなアプローチを検討していく。

・審議会では、値上げすることだけを決めるのか。それとも具体的にどれくらい値上げするのが妥当かというレベルまで議論していくのか。具体的な金額を出すのであれば、詳細のシミュレーションが必要。値上げによって、「これだけのサービスが提供できますよ」と言えれば、高くてもいい。料金だけではなくて、提供するサービスから議論していくべき。それが福山市のPRにもなるから、前向きに進めればいいと考える。

⇒議論の経過に応じて回数や時期は変動する可能性があるが、現時点で第1回から第5回までの審議会に加え予定を示し、必要に応じて部会を開催する予定。水道料金の値上げが必要な場合、必要な金額についても議論の中である程度詳細に検討していただきたいと考えている。

料金シミュレーションについては、第3回以降で行う予定。施設整備の水準を保つためには、どれくらいの料金が必要かなど、いくつかのパターンを示したうえで、皆さんにご理解いただけるように準備を進めたい。

・施設整備の水準によって費用や経営計画がどのように影響するのか丁寧に説明いただきたい。現実的にどれだけ高い水準をめざせるかを理解するため、いくつかのシミュレーションを提示していただきながら議論を進めていきたいと思う。

(会長意見)

・今後のスケジュール感について。いつ答申を提出したらいつ改定になるのか。

⇒現在の厳しい状況や料金を上げることになった場合の開始時期についても、今後、提案させていただく中でご議論いただけたらと考えている。

以上